

### 雌雄同体のマサバ

沖山 宗雄・川口 哲夫  
(1974年8月9日受領)

### A Hermaphroditic Specimen of Mackerel *Scomber japonicus* from the Japan Sea

Muneo Okiyama and Tetsuo Kawaguchi

A hermaphroditic specimen of mackerel, *Scomber japonicus*, measuring 35 cm in fork length, was collected from off San'in district, the Japan Sea. Its gonad was described with illustration and compared with the known hermaphroditic case in the same species. Histological observation revealed that both testis and ovary might have been functional in this specimen with clear protandric trend.

(Japan Sea Regional Fisheries Research Laboratory, Nishi-Funamicho, Niigata, 951, Japan; Sakai Branch of Tottori Prefectural Fisheries Experimental Station, Sakaecho, Sakaiminato, Tottori Prefecture, 684, Japan)

魚類において偶発的に出現する雌雄同体現象は、その報告も多く(松原・他, 1965), ここに述べるマサバ *Scomber japonicus* Houttuynにおいても、すでに観察例がある(滝崎, 1953)。ここでは日本海から採集された標本にもとづく新事例を追加し、あわせて既知例との比較をおこなってみた。

標本は1970年5月24日、日本海南西部の隱岐島知夫里の南方5海里において漁獲された多量のマサバ中から発見されたもので、主な計測値は次の通りである。



Fig. 1. Viscera of a hermaphroditic specimen of mackerel (ventral view).

る。尾叉長 35 cm, 体重 605 g, 生殖腺重量 70.2 g [精巢重量 38.7 g, 卵巣重量 20.6 g (左葉) + 10.9 g (右葉) = 31.5 g]。

Fig. 1 に示したように本標本においては、両性生殖巣の発達が顕著で、一見して雌雄同体であることが確認できる。特に精巢は右葉の前中央部に限定されはいるが、非常に肥厚し、重量は卵巣の1.2倍に達する。

組織学的観察結果によると、卵巣の成熟状態は立石(1958)の後卵黄球期に該当するものが多いのに対し、精巢は精子変態中の精細胞および、すでに完成した精子が充满し、卵巣よりもかなり成熟が進んでいた。

両性生殖巣が併行して成熟した例を、すでに滝崎(1953)がマサバにおいて報告しているが、組織学的観察はおこなわれていない。本例においては上述のように両性生殖巣の間で成熟状態に多少の差違が存在していた。また、両性生殖巣のモザイクが、既知例(滝崎, 1953)では、精巢は右葉における発達がより顕著ではあるが両葉に分布していたのに対し、本例では精巢は右葉に限られていた点が異なっている。

いずれにせよ、本個体ははじめ雄性として、後には雌性としても機能する可能性があったものと思われて興味深い。

本報告の取りまとめにご協力いただいた、日本海区水産研究所岡地伊佐雄、大池一臣、長沼典子の各技官にお礼申し上げる。

### 引用文献

- 松原喜代松・落合明・岩井保, 1965. 魚類学(上). 水産学全集9, 恒星社厚生閣, 東京, ii+xi+342 pp., 397 figs.  
滝崎吉雄, 1953. サバに見出された雌雄同体. 採集と飼育, 15(2): 63~64, 2 figs.  
立石新吉, 1958. サバ生殖腺の組織学的研究. 対馬暖流開発調査報告書, 第4輯, 渔業資源篇: 50~52, 2 figs.

(951 新潟市西船見町浜浦 日本海区水産研究所・684  
鳥取県境港市栄町 鳥取県水産試験場境分場).